



111

小学校高学年向け 年組

子ども 1 万人 最少更新

41年連続減、コロナ拍車か

総務省調査

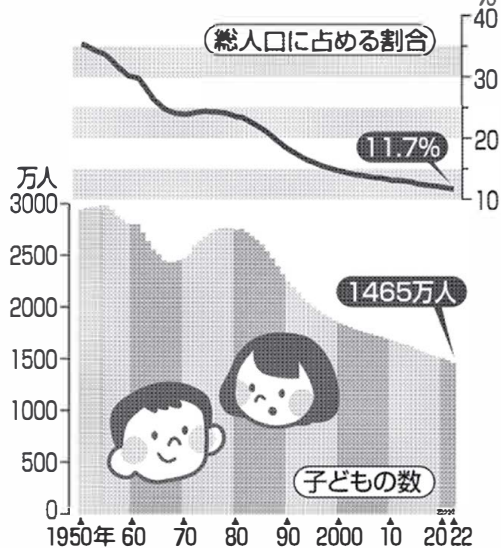
総務省は4日、外国人を含む14歳以下の子どもの数は前年より25万人少ない1465万人で、41年連続で減少したと発表した。「こどもの日」にちなみ4月1日時点の人口推計から算出した。総人口に占める割合も0・1%下がって11・7%。内訳は男子751万人、女子715万人だった。3歳以下の年齢層別は12・14歳が323万人で、年齢層が低くなるにつれ人数も少なくなり、0～2歳は251万人。出生数が年々少なくなっている実情を反映している。

子どもの数は54年の2989万人をピークに減少へ転じ、第2次ベビーブーム（71～74年）前後に増えたものの、82年から再び減り続けている。国連人口統計年鑑を基に人口4千万人以上の35カ国を比べたところ、調査時点は異なるものの、日本の子どもの割合はイタリアの12・99%、韓国の11・9%を下回り最も低かった。昨年10月1日時点の詳しい集計によると、子どもの数は全ての都道府県で前年より減った。都道府県ごとの人口に占める割合は沖縄県の16・5%が最も高かった。最も低いのは秋田県の9・5%。次いで青森県10・4%、北海道10・5%だった。

本県の子ども数は22万3千人で、人口に占める割合は前年比0・2%下がり11・6%。子どもの数が全ての都道府県で前年を下回ったのは99年10月以来。

子どもの数と総人口に占める割合

※2021、22年は4月1日時点。20年までは10月1日時点



子どもの数は54年の2989万人をピークに減少へ転じ、第2次ベビーブーム（71～74年）前後に増えたものの、82年から再び減り続けている。国連人口統計年鑑を基に人口4千万人以上の35カ国を比べたところ、調査時点は異なるものの、日本の子どもの割合はイタリアの12・99%、韓国の11・9%を下回り最も低かった。昨年10月1日時点の詳しい集計によると、子どもの数は全ての都道府県で前年より減った。都道府県ごとの人口に占める割合は沖縄県の16・5%が最も高かった。最も低いのは秋田県の9・5%。次いで青森県10・4%、北海道10・5%だった。

（2022年5月5日付
・下野新聞2面）

記事は加工しています

設 問

【1】見出しの□に当てはまる数字を答えましょう。

【2】記事を読んで、AさんとBさんが会話をしています。（ ）に当てはまる言葉や数字を、記事の中から探して答えましょう。

Aさん：全国の子どもの数だけでなく、総人口に占める割合も（ ① ）%と最低を記録したんだね。

Bさん：本当だね。少子化が一段と進んだ背景には、新型コロナウイルスの感染拡大による（ ② ）が関係している、と書かれているよ。

Aさん：14歳以下の子どもは、男子と女子を比べると（ ③ ）の方が多いんだね。

Bさん：年齢層が低くなるにつれて人数も減っているから、（ ④ ）が年々少なくなっていることが反映されている、とあるね。ぼくのひいおばあちゃんは、兄弟が5人もいたんだよ。

Aさん：今ではめずらしいよね。1954年のピーク時には（ ⑤ ）万人も子どもがいたんだね。今の約2倍の人数だ。

Bさん：びっくりだね。人口4千万人以上の世界の国々と比べても、日本の子どもの割合は（ ⑥ ）や韓国を下回り最も低いんだって。

Aさん：栃木県の子どもの数も（ ⑦ ）人で、人口に占める割合は11%台なんだ。

Bさん：（ ④ ）の他に、子どもの数が減り続けている原因はあるのかな。（ア）

Aさん：減ることで、どんなえいきょうがあるのかな。（イ）

【3】AさんやBさんの疑問（ア）・（イ）に対して、あなたはどのように答えますか。考えを書きましょう。